特集2

2006年度 支部・ステーション合同連絡会レポート

ピティナ40周年記念コンサートの翌日3月29日(木)に、ホテルニューオータニ「鳳凰の間」にて「2006年度支部・ステーション合同連絡会」が開催されました。支部、連絡所およびステーションの合同での連絡会は、初めて。北海道から沖縄まで、全都道府県から支部・ステーション運営に関わる総勢468名の方々が参集されました。

昨今、コンクールや検定、公開講座やコンサートなど、様々なピアノの研修&啓蒙事業が、各地で開催されていますが、ピティナで主催するもののほとんどが、ピアノ指導者である会員の先生方による企画・運営で実施されています。この支部・ステーション合同連絡会は、このようなピアノの研修&啓蒙事業の企画・運営に関わる先生方、および協力楽器店の方々が一堂に会し、各地の情報交換を行う場です。情報交換を通じて出された様々な課題や成功事例を、会報誌上でもその概略をご紹介します。これまでに"生徒を参加させてきた""ご自身でも受講してきた"けれども、"まだ運営側には関わったことがない"という先生方にも、今後ぜひ、ピティナの活動への参画をしていただければ幸いです。

Part.1
コンペ&ステップ運営の工夫

まず1つ目のテーマは、コンペ&ステップの運営について。事前準備、運営スタッフの確保と分担、当日のスムーズな運営、参加者および審査員・アドバイザー対応、運営経費など。多岐にわたり、現状の課題よりよい運営のためのノウハウについて、意見を交換した。

■基調プレゼン①（コンペ運営の工夫）

辻美千子先生（京都支部運営委員長）による、参加者の増加にも対応できる、すばやく正確なコンペ運営の事例を紹介。

・時間割作成：初日の朝は、会場設営等で人手がとられるので、比較的人数の少ない級、年齢の大きい級を最初に持ってくるのがポイント（準備が余裕をもって出来る）

- 進行：参加者一人一人の演奏開始時間、終了時間を入れた進行表を作成。分単位で進行が遅れているのか、早まっているのか、随時確認できる。人数超過の時は、表彰をロビーなどで、審査と同時進行ですると時間が節約できる。状況により、掲示発表。特別賞は、1日の最後まとめて。
- スタッフの確保：支部運営委員で足りない場合は、所属会員やそのお弟子さんに依頼。元ピティナっ子にお願いすると、事情がわかっているのでスムーズ。級によって必要人数を調整するとよい。
- 受付：採点票後送希望者に着払い伝票を書いてもらうと事後処理が軽減される。
- 舞台回り：カットのベル音を審査前に参加者に聴いてもらう。

■基調プレゼン②（ステップ運営の工夫）

沢田菊江委員（ステーション育成委員会）による、広島中央支部エリアのステップ開催の紹介と提案。

・参加者募集：ポスター、チラシと言った媒体に頼るだけでなく、face to faceの関係の中で内容を理解して頂き「うちの生徒たちにとって、こんなに意味のあるものだ」「自分の子供が参加してみてこんなに良かった。」ということを伝えることで、新たな参加者が増えていると実感。

- 運営スタッフの確保と分担：回数を重ねているステップの現場ではそれぞれのポジションに熟練したスタッフがおり代表者がその方に安心して任せている、という状況が見られる。それはほとんどの場合、生徒を参加させている先生たちで根本には「参加している人たちが、喜んでくれるステップでありたい。」という気持ちを強く持っておられることを感じる。
- アンケート用紙やステップ・コミニュケーション用紙の活用：筆記用具（100円ショップの消しゴム付き鉛筆などが便利）を配布することで回収率が大幅に増える。
- 参加者の対応：初めて参加した方に対して、舞台に上がるまでの不安がないよう当日の動きを受付でお伝えする他、案内文を配布する。
- アドバイザー対応：ステップの場合は、あらかじめ時間制限があるため、時間オーバーの場合は、公平を期すためにカットすることが必要。カットに対する参加者・聴衆・アドバイザーへの理解徹底は今後の課題。
- 運営収支の工夫：その地域の住人にのみ安く借りられる会場を利用したり、支部、ステーションで備品を共有したりそれぞれ工夫がみられる。

■グループ討論&発表より

誌面の都合でここでは割愛しますが、「運営スタッフの確保と分担について」「運営収支の工夫」に関する意見が多数挙がりました。今後、コンペ&ステップ運営マニュアルに反映させていきたいと思います。

ステーション育成委員長：杉浦日出夫先生による開会のご挨拶

「子どもたちに全国どこにいても同じレベルのピアノ教育を受けられることを祈っていた故福田靖子先生（創立者）の理念が、皆さんとこうやって一堂に会すると、だんだん実現していることを実感します。子どもへの愛、音楽への愛を注ぎつつ、ピティナの未来、われわれの未来が今後も続くことを願って、今日はディスカッション50%、親睦会50%で、どうぞ有意義にお過ごしください。」

Part.2 ステップ・オプション企画

次のテーマは、主にピティナ・ピアノステップの当日や前後日で取り入れられている「オプション企画」について。通常にステップを基本にしつつも、独自のカラーも同時に出すことのできる「オプション企画」を、各地の事例を映像とともにご紹介し、ステーション活動の個性化・多様化について、話し合った。

■基調プレゼン

石井なをみ先生（ステーション育成委員）による、神戸中央支部および協力ステーションの事例の紹介。

・ステップ当日にオプション企画を実施する地区が年々増加し、2006年度の実施件数は半数を超えた。

・「オプション企画」を取り入れる意義は、①毎回部分的に「テーマ」を設けることで、実施事務局や参加者に「新鮮さ」を与えられること　②指導者、参加者、保護者ともに、様々な分野の様々なアプローチで「学ぶ機会」が増えること　③ステーションの個性を発揮することで、近隣のステーションと共存しやすくなることが挙げられる。

・神戸中央支部の場合、9つある協力ステーションごとにテーマを設定し（アナリーゼ/中高生中心のグランミューズ/リトミック/連弾・2台ピアノ/EL伴奏によるコンチェルト/教材研究/室内楽/実年中心のグランミューズ/ポピュラー）、ステップのオプション企画や翌日の講座とのタイアップを図っている。

■グループ討論&発表より

- ステーションで特色を出して企画がぶつからないようにする。各ステーションでテーマわけされていると、参加者募集もかけやすい感じがした。
- 他地域の特色をハッキリ認識していくと、オプション企画へのアイデアにつながり、ステーションのカラーにつながる。
- スタッフによるコンサートを企画中（リレーコンサート/研修の成果発表&参加者へのプレゼント/先生たちの合唱に生徒達に伴奏など/お昼休みの時間帯活用）
- 何でもOKのフリーステップをオプション企画に有効活用
- 参加者の希望を取り入れる
- 室内楽ステップでは、事前の合わせを公開形式にして聴講してもらった。ステップ前後の時間を活用することで先生同士のコミュニケーションも取れる。
- 無理せず、その地域に出来る企画、会場に合った企画、会員の先生の得意なものを生かす企画を、というスタンスで。
- トークコンサートをする事で、ステップ会場内の雰囲気が変わった。（観客動員にもつながった）
- グランミューズの方々から元気がもらえる。上手くはないけど心がある。一般の聴き手を確保して盛り上げたい。
- 室内楽やコンチェルト企画では、回数をこなし、共演奏者、運営がやっと落ち着いてきた。
- テーマを決めて事前に勉強会をしてステップに向ける。（今回はモーツァルトをテーマに）
- ワンポイントレッスンを公開レッスンとして活用。ステーション側で費用負担。会場に向かってアドバイスをしてもらう。
- 観客と一体となるような企画を考えたい。
- グランミューズ終了後、音楽史セミナーなどを企画中。
- 他楽器の貸借は、ステーション間のネットワークを活用。
- 共演者の確保：他の楽器とのアンサンブルでは、教育大学の学生に依頼/地元のピアニストを依頼して2台ピアノ
- 企画アイデア：作曲コーナー（子供の情操に効果的）、課題曲コーナー（聴比べ）、ダンスとのコラボレーション、作曲家別コーナー、先生方のアレンジものコーナー、小クイズ・ビンゴゲーム（参加者とスタッフの交流も）

ビデオ上映

各地のオプション企画の事例が映像で紹介される。
◎ステップ中の企画：リレー連弾、ドラムとの共演、フルート・ドラムとの共演、ポピュラーアレンジ、アドバイザーによる6手連弾、木管楽器との共演、弦楽器との共演、エレクトーンオーケストラとの共演、オーケストラとの共演、郷土音楽（島唄）、朗読付きのピアノ、リトミック、ミニレクチャー、古楽器でモーツァルト、参加者とアドバイザーの懇親会。
◎ステップ開催と連動した企画：アドバイザーによる出身校でのクラスコンサート、ステーション代表者によるステップ前後のレクチャーコンサート、プロの演奏もまじえた継続表彰コンサート

Part.3
セミナー運営のこれから

Part.3のテーマは、支部・ステーション主催のセミナー、研修会の今後について。少しずつ拡がりをみせているセミナーの現状をふまえ、さらに会員の研鑽活動を促していくための新たな試みについても話し合った。

■基調プレゼン

池川礼子先生（ステーション育成委員会）による、過去3年間の支部・ステーション関連のセミナー経過報告と今後の提案。

・過去3年間の各地でのセミナーが、一般的なテーマの講座を中心に、開催数が増加中（2006年度は170地区）

・支部・ステーション主催セミナーは、所属メンバーの育成、結束という点で重要である

- 運営の工夫として、受講対象を生徒や親にも広げた講座（対象の拡大）、コンペやステップとタイアップしたセミナー（イベントのシリーズ化）、ステップのアドバイザーにセミナー講師を依頼（講師派遣の交通宿泊費の節約）、所属会員による研究発表会を実施（人材育成）などが挙げられる。
- 支部、連絡所、ステーションで主催、ピティナ本部がマネジメントするセミナーを「ピティナ・ピアノセミナー」というくくりにし、指導者版パスポートによる受講＆レポート提出履歴の管理、表彰、受講証書の発行、指導者検定との連携などのシステム化を検討している。

■グループ討論＆発表より

- 遠方地区でのセミナー開催は講師派遣に経費がかかるが、ステップの前後にセミナーを設定すると、旅費交通費をその分カットできるというのは魅力的。ぜひ実行したい。
- ステップ翌日は疲れていて、スタッフの受講が難しかった→近隣の支部・ステーションと連携を組み、それぞれのセミナーを相互に活用する／近くのステーションと協力して合同で行う／企画や運営をステーション同士で協力することで、ステーション同志のつながりが生まれる。
- セミナーにより、会員も増えるし先生方のステップアップにつながる。
- ステーション活動は、セミナーをまず開催し、先生方共通の目標を持つことからスタートした。
- 指導者用パスポート案に賛成。/若い先生にはとてもよい。/無料配布して欲しい。/パスポートがある事でシリーズの講座に参加する方が定着しやすいのではないか。/指導者の成長にもつながると思う。
- 会員によって勉強したいニーズはいろいろ→指導者側から企画を募集した。/セミナーの先生を、支部総会などでアンケートで選んだ。
- コンクール対策以外にも、地道なテーマの講座も大切だ。
- ピティナ全国組織の役割を活かして地方へ。年一回でもよいので、ピティナ主催でのセミナーを全国に回して欲しい。地方との格差を埋めて欲しい。受講パスポートも講座がなければ参加できないので。
- 受講パスポートと一緒に講座の資料を入れるファイルを。受講した講座の資料を保存しておくのが大変。

- 内輪の勉強会開催のアドバイスも今後ほしい。
- アドバイザーに来て頂いたのがきっかけで、セミナーを開催することになり、それがシリーズ化している。
- 親子で参加できる企画：バロックダンスやコーチングなどはとても好評だった/生徒が学習する曲を取り上げる等、むずかしくなく実際にできるようなものがよい
- 短時間セミナーでローコスト化できるのではないか。/楽譜の用意をするのは困難。ミュッセ等の活用も工夫の一つ。

組織委員長：熊谷洋先生によるご挨拶

「40周年を記念して、支部とステーション合同での開催になりましたが、この広い会場が全く広く感じない。全国の輪の広がり、勢いを実感します。全国に唯一支部のなかった岩手県に今年連絡所が開設し、全都道府県もれなく予選会場ができたことはすごいこと。大きくなっただけでなく、組織活動の中身が充実していることは、皆様の努力によるものです。今日も盛りだくさんの企画ですが、今後のさらなる発展につなげたらと思います。」

Part.4 会員組織の育成

Part.4では、会員間の交流の活性化、支部・ステーションの協力体制の構築につながっている最近の事例や、今後の支部・ステーション運営のノウハウについて、話し合った。

■基調プレゼン

江崎光世先生（ステーション育成委員）による、ピティナ会員の現状分析、今後の支部・ステーションへの会員の“迎え入れ”と“育成”の両面からの事例紹介と提案。

・ピティナは一見成熟しているように見えるが、まだ未熟であると認識し、今後さらに成長していくためのアプローチを考えていく必要がある。
- 現在のピティナ会員の年代を見ると、40代が中心層であるが、20～30代の若手の指導者が参加しやすい仕組みを考慮していく必要があるのではないか。
- ステップは指導者同士の開かれた交流の場であり、勉強会の連携することによって、共通の興味を持つ指導者とのつながりが作れる。さらに先輩指導者が後輩へ伝授することによって、輪を拡げながら、お互いが成長する機会が作れる。
- 「指導」よりも「演奏」が強みの若手指導者には、学校訪問コンサート、ステップ中の「トークコンサート」 などの活躍の場を作ってあげると、ピアノ教育の啓蒙と組織作りにつながる。
- 音大orピアノ指導者を目指す学生には、学生のための職業体験（インターン）の機会提供として、コンペ・ステップ運営の手伝いをしてもらっている。子どもたちの演奏を聴くこと、地元の先輩指導者や楽器店とのつながりができることは、学生にとって貴重なこと。
- 指導者同士のつながり作るアプローチとして、アンサンブルを活用してきた。みんながそれほど経験していない分野で、新しいノウハウを提供すれば変化する一方、新しいのでできなくても抵抗がない。仲間意識ができると同時に、人前での演奏に一歩近づく。
- 指導者を育てていく、という目的は、ピティナと楽器店で共通している。楽器店に何かをしてもらうのは当たり前、という感覚を持つのではなく、共存作業をしていくことが必要。

■グループ討論＆発表より

- ステップで会員の先生方同士のアンサンブル発表をするなど、交流を継続的に深めていくことを考えている。
- ステーション体制になって、説明会や講座などを機に会員増加。若手の先生方の意見が活発に出されるようになった。
- 年代別に会える機会があるといいのではないか。
- ステップ当日に他のステーションの方のお手伝いもあり、お互いに良い関係、情報交換の機会になっている。
- ステップ当日と開催前後の準備会、勉強会などで、年間3回はスタッフで会い、コミュニケーションを図る。
- ステップ時にアドバイザーやスタッフの先生方との食事を共にし話し合う場を設けることで、先生同士の交流もできる。
- 楽器店と指導者との付き合いにおいて、何がgiveなのか（楽器店からして）先生方が何を求めているかわかると良い。
- ピティナの会員になって良かった事は、地域の先生方と交流を深める事。ピティナの仕事はボランティアだが、それ以外のメリットがあるので多くの方に入って欲しい。
- 他分野のスタッフがいると新鮮なアイディアを得られる。
- 新しい先生を初めてお手伝いに引き出すのが大変だが、2回目からはわりと楽に来て頂ける。新しい先生をスタッフに迎えいれるときは、スタッフ全体の配慮が必要。
- 学生時代からスタッフで参加している方を確保して支部発展につなげている/継続表彰などをむかえた、少し慣れた生徒をスタッフとして取り入れると、生徒間の交流にも繋がる。

Part.5
地域との協力関係作り

次のテーマは、コンペやステップの継続的な開催やピアノ教育の啓蒙に、ますます重要になってくるものと思われる地域団体との関係作りについて。特に、自治体、ホール、学校との関係作りのポイントや地域活動との連携の事例など、意見交換をした。

■基調プレゼン

中田元子先生（ステップ担当者連絡委員）による、後援・協賛取得に関わられた大阪での事例とノウハウの紹介。

- 自治体からの後援取得：大阪府・市・教育委員会のコンペ本選への後援取得（名義・賞状）が、グランミューズ対象のステップの名義後援、知事や市長の挨拶文のプログラム掲載に発展した。
- ホール協力：ホール関係者のステーションメンバーへの取り込み、初回ステップの実績（定員を超える大人の参加者）により、優先予約・ホール代減免が継続。ステップの企画コンセプトによっては、ホールとの共催の可能性もあり。
- 学校の施設貸し・演奏協力：母校とのつながりを活かし、音大施設でのコンペ本選にはじまり、附属音楽教室によるステーション設立、弦楽器の教授陣によるステップでの室内楽共演と、協力関係が広がってきた。（→ピティナ活動が無言の音大や附属音楽教室のアピールとなり、お互いの活性化につながる好事例に）
- 学校内広報の協力：ステップ・オプション企画でのトークコンサートをメインとしたポスター（本部作成）を地元の学校に掲示依頼したところ、26の幼稚園、小・中学校で掲示してもらった。“ステップが文部科学省後援”“トークコンサートが入場無料”という点で、学校での広報協力が得やすい。
- 地域との関係構築のポイント：①「つながり」の探索＆構築（母校、元仕事場、生徒の在校など、「つながり」のある人脈を見つけること、クラスコンサートでの奉仕演奏など「つながり」を作っていくこと）、②「相互理解」の探索＆構築（相手のメリットを明確に、教育的な意義を訴求。継続的な協力要請）、③協力要請のタイミングに留意　など。

特別ゲスト

杉山よしひろ氏
千葉県松戸市市議会議員

行政、議員との関係作りにおいて、いろいろなツールのある中の1つとして、「地元の議員の活用」をしてもよいのでは、と思います。市役所は市民の役に立つためにあり、市議会議員は市民の代表として意見を物申すに立つために存在しています。あまり壁を作らず、気軽にご相談いただいていただきたいと思います。先日教育長とも、ピティナの活動について魅力あるすばらしい活動であると話していたところ。これからも自信をもって全国にピアノを広げるためにがんばっていただきたいと思います。

■グループ討論＆発表より

- 継続表彰やステップ参加を学校に連絡し、校長先生と記念写真をとっていただいた。記念コンサートに出演する子の学校の校長先生を招待した。
- ステップ参加の様子を収録したDVDを学校の先生に見てもらい、演奏の機会を作ってもらった。
- コンペ・ステップをうけてる子10名くらいが、1年に1回老人ホームに訪問演奏会をしている。
- 自治体はピティナのことを知らない。地元への積極的な働きかけで、行政も協力的になってきた。
- ボランティアでＰＴＡ開催のイベントなどで演奏させてもらい、ピティナの事をアピールする。
- 書類だけでは人は動いてくれない。自分自身が動くことが大切。（実際に聴いてもらう、実際に参加してもらう）
- 父母や地域の先生方に信頼性を得るためにも、後援をもらっている。
- 学校の授業に音楽の授業が減っている中で学校内にピティナが関わると生徒は喜ぶ。音楽高校、大学ともっと関わるとお互い相乗効果が生まれる。

Part.6 ピティナのメディア活用

最後のテーマは、「ピティナのメディア活用」と題して、2007年度より開設予定の支部・ステーションのホームページを中心に、その計画を提示し、その活用について話し合った。

■基調プレゼン

武田真理先生（メディア委員長）による、支部・ステーションのホームページを中心に、本部ホームページの音源配信（ピアノ曲辞典）、楽譜サービス（ミュッセ）の概要と活用方法の紹介。

- **新設予定の支部・ステーションのホームページの大きな特徴は、「本部事務局だけではなく、支部・ステーションの先生方にも制作に参加していただける」ということ。**
- **編集方法にブログ形式を採用することにより、 ページの更新方法が大変シンプルになる。編集担当者を1人にお任せするのではなく、支部やステーション内でパスワードを共有するメンバー同士で、どのマシンからも更新が可能になる。**
- **ページ構成は、①ホーム画面（トップページ）、②ブログ画面（読み物ページ）、③イベント画面（年間スケジュール）、④プロフィール画面（自己紹介ページ）、⑤コンタクト画面（問合せフォーム）の、主に5つの画面を基本に準備中。**
- **ピティナのホームページ上（現在1万PV/日）に設置することで、ピアノ関係者から多数のアクセスが見込める。**

■グループ討論&発表より

- **他の各支部・ステーションとの情報交換ができると良い。いろいろなことを全国のＳＴ代表者に相談したいので、ＨＰ上に問合せ先フォームがあるのはうれしい。**
- **支部・ステーション相互のつながりが生まれてくるのではないか。若い人のとっかかりにもなりやすいのでは。所属会員へメールマガジン発行という形まで持って行ければ良い。**
- **本部からのサポート、簡単に維持できるものであればできるかもしれない。**
- **よく更新されている順などをランキング、おすすめなどをトップページ等で出してはどうか。悩みを会員に呼びかけて、その解決法を集めることができないか。**
- **ホームページを立ち上げたが、外部に依頼しているので思うようには作れないので、ピティナの中にホームページが出来れば利用したい。**
- **生徒募集への活用、指導情報の公開がすすみそう**
- **パスワードが1つで何人かで管理できるのはよい**
- **携帯からでも見れるＨＰにしていくと良い**
- **読み物ページには、支部・ステーションメンバーが、直接エッセイやレポートなどの読み物を投稿することが可能。支部・ステーションのカラー作り、自己表現の場、情報交流の場など様々な活用の仕方を開拓していただきたい。**
- **年間スケジュールでは、ピティナ本部が仲介しているイベントは、本部にて掲載をバックアップするので、未更新が回避できる。**
- **「ミュッセ」（楽譜） の活用事例：音の森ステーションで実施したコンチェルト楽譜の二台ピアノ譜、スコアの出展、販売/ポピュラーアレンジステップで演奏された曲の個人出版/コンペ課題曲のアナリーゼ楽譜**
- **ピアノ曲辞典の今後：現在、ピティナのアクセス数の約4割を占めているのが、音源未掲載の曲はまだ多い。今後は、この音源資産を活用した「ピアノ曲検定」を検討中。**

ステップ担当者連絡会委員長：戸沢睦子先生による閉会のご挨拶

「今後ますます地域密着型の時代になり、支部・ステーションの意味もでてくるでしょう。全体を眺めた中で、地域の特徴をふまえて、いろんなことを提案していけたら、すてきな発展性のあるピティナになるのではないでしょうか。支部・ステーションの皆さんの、このエネルギーがある限り大丈夫。支部・ステーションが、多くのピアノ愛好家、専門家を目指す子どもたちの故郷になり、本当の意味での「ぬくもり」をもって、次の世代に伝えていきましょう。」

福田成康専務理事による閉会の挨拶

「40周年を迎え、40年続いたことのみならず、常にアップトレンドで40年を迎えることができたことがうれしい。とはいえ、ピティナは、私の中ではまだまだ未成熟。学校広報、アンサンブル、ポピュラー編曲・・まだまだやれることは多いし、全国1500ある市町村に各1ステーションを設立する余力はあると思っています。家庭と学校と社会と、3つが連携していくこれからの教育において、ピアノを中枢に置き、ピアノの世界から様々なことを発信できればと思う。50周年もアップトレンドで迎えましょう。お力添えありがとうございました。」